

---

# 鱗粉

じかん

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

鱗粉

### 【コード】

N9605X

### 【作者名】

じかん

### 【あらすじ】

美しい蛾が舞っていた。自サイトにも掲載しています。

その蛾は美しかった。悠々然として、翅は妖しい光彩に彩られて、紋白蝶ぐらいの大  
きさで、振りまく鱗粉は幽かに光を反射し、毎日場所を変えては夜  
になると舞っていた。

駅の近くの街灯を選んではその灯りの下で舞い、通行人の背後から近寄り首の近くを  
少し舞っては別の人へと、男女の区別無く移り、その動作を繰り返していた。

そして今も男性の周りを舞っているが少しふわりふわりと舞い、次は女性に近づき背  
中と首の辺りを舞っては次に移った。蛾はその男の首の周りを少し舞うと、男のスーツ  
の後ろの襟に停まった。

男は蛾には気付かずマンションに帰り、誰も居ない部屋の明かりを点けると、蛾は襟  
から離れて玄関の上の隅に飛び停止した。

仕事の疲れをシャワーで癒すと、冷蔵庫から缶ビールを取り出し、一口飲んでテレビ  
のレコーダーに録画してある映画を観始めたが、眠気に勝てずビールを一気に飲み干す  
と、テレビのスイッチを切り、ハミガキをして、部屋の明かりの常夜灯を灯し眠りに就いた。

直に男は寝息を立てると、蛾が休めていた4枚の翅を器用に2、3回ゆつくりと動か  
しすり合わせてから部屋の中を飛び始めた。蛾は寝ている男の周り

を旋回して、鱗粉が

男の顔に腕に布団に降り注がれ一晩中蛾は飛び続けて、明け方にベツドの脇に停まると

そのまま動かなくなつた。

目覚まし時計で目を覚ました男は、簡単に身支度を整えて、会社の近くにあるファミ

レスのモーニングバイキングを食べて、一休みしてから会社に着いたが妙に目がちかち

かする。昼休みに入ると、先ずドラッグストアに行き目薬選びに頭を悩ませて買い、弁

当も買って会社に帰り昼食を自分のデスクで食べた。

定時になつたが男は少し残業をして、同じく帰ろうとしていた同僚と居酒屋で夕飯を

兼ねて、ビールでお疲れの挨拶を交わした。

二人は目の前に並べられている料理の品々に箸を伸ばしては、仕事の愚痴をこぼした

り、または誰と誰が付き合っている、どこそこの会社が不渡りを出したとか、あの会

社もそろそろ危なそうだななどの話をして何処にでもある話で、何処でも聞けそうな話だ

つた。男は食欲があり実によく食べよく飲み、普段は居酒屋ではあまり注文しないフル

ーツも平らげてすつかり満腹の体だ。

居酒屋を出て同僚と別れた男は、電車の中で1時間ほど揺られたら気分が悪くなり、

頭痛がしたので、いつも携行している鎮痛剤を服用した。駅で降りると改札を出て普段

通りの道のりを歩いているが、街灯がやけに眩しくて、頭痛も治まらず軽い眩暈もあ

り、足取りも重くなつた。もうすぐ部屋に着くと思ひながらある歩

いていたら、あの蛾  
が飛んでいた街灯の下に差しかかると、男の意識は朦朧となりぐつたりして電柱に凭れ掛かった。それから5分ぐらい経つと、男の首の後ろから羽化した美しい蛾が舞い出た  
が、蛾は次々に1頭2頭、10頭20頭と現れてはその数を増やすと、数百頭となり、  
一部はその場を離れて飛び去り、また一部は街灯の周りに群がった。  
カップルが街灯の下を通り掛かった。

「何、あれ、見て」

「何だろう。スーツにワイシャツにネクタイに、鞆もあるし靴も靴下も履いているよ。」

マネキンに着せてあったのを、そのままマネキンだけを抜いた感じだね」

「変なの」

「随分と変わったゴミの捨て方をするもんだ」

カップルの男女それぞれに1頭の蛾が近寄り、合わせて2頭舞っており、ゆらゆらふわふわと舞うと、2頭とも離れて街灯の近くに戻り舞っていたら、別の若い男が歩いて

来て、1頭の蛾は首の後ろを舞うと背中に停まった。その後、人気は途絶えたので、男の意識は最早存在しなかったが、蛾としての種の本能だけが働いていて、夜のしじまの中、新たな人気と街灯を目指して、それぞれの色鮮やかな蛾は舞いながら散開した。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9605x/>

---

鱗粉

2011年11月13日22時34分発行